

会話の文末における「ータラ」「ーバ」の 終助詞的用法

—発話行為と対人関係から—

元 春英

キーワード 対人関係 談話機能 配慮 発話行為

1. はじめに

日本語学習者にとって条件節としてなじみがある「ータラ」「ーバ」は、会話の文末にも用いられ、発話場面や人間関係によって談話機能が異なる。例えば、次のような発話がある。

(1) (家で)

娘 : 父さん、母さん、ちょっと静かにしたら。祐助（自分の子供）が眠ったばかりなんだから。

親 : (無言) ……

『渡る世間は鬼ばかり』

(2) (会社で)

同僚A: そろそろ新しいコンピューター買ったら。

同僚B: そう思ってるんだけど、なかなかいいのが見つからないんだよ。

(作例)

(1)の「ータラ」は家族同士が「家」という「私的」な場所で行った会話であり、「娘」が強制的な要求を求めている発話である。(2)は発話者同士が「私的」というよりも「職場」という「公的」な状況の下で行った会話であり、「同僚A」がなにかを勧める場面である。(1)(2)のように、「ータラ」は「命令」の場面だけではなく「勧め」の場面にも使われている。「ーバ」も同様に「命令」の場面や「勧め」の場面に使われている。

このように文末における「ータラ」「ーバ」は、発話状況や話し手と聞き手の人間関係が異なるにつれて談話機能に変化があるため、日本語学習者にとって

は理解しにくくなかなかうまく使用できない。本稿では、テレビドラマから採集したデータを基に日本人の会話を観察し、談話の文末における「ータラ」「ーバ」が発話行為や対人関係によってどのような談話機能を持ちうるのかを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究及び問題点

「ータラ」「ーバ」の談話機能・働きかけ文に関する先行研究には小野・巴(1983)、島(1991)、中島(1997)、ベイズ高野・新里(2001)¹などがある。

小野・巴(1983)は「ータラ」「ーバ」を接続助詞と見なし、その機能を考察している。接続詞「ータラ」「ーバ」には、それぞれ「相手にある行為を促す」「遠慮がちに相手に勧める」という用法があると解釈している。島(1991)は文末の省略とポライトネスという観点から「ータラ」を分析し、条件文における帰結節の省略であると判断している。その使い方には①本来の仮定や条件の働きが強く残っている用法と②本来の仮定の意味が薄れて派生的に用いられる用法の2つがあると説明している。

小野・巴(1983)と島(1991)は文末の「ータラ」「ーバ」を省略文として扱っている。「ータラ」「ーバ」の帰結節が省略された場合とそうでない場合とで伝達機能はかなり異なると筆者は思われるが、小野・巴(1983)と島(1991)にはその点について言及されていないため、日本人会話データを観察し、再検討する必要がある。

中島(1997)は、「職場における女性の話しことば」²を使用し、その中に現れる「ト」「バ」「タラ」「ナラ」の非条件接続用法に焦点を絞って調査報告を行っている。中島は文末の「ータラ」「ーバ」を文末詞的用法として分類し、「勧告」の発話行為でよく用いられると述べている。また「ータラ」は終助詞「さ」や「ね」を伴い倒置あるいは後略された文にも現れると説明している。中島は自然談話に基づき、非条件接続用法を持つ文末詞的な「ータラ」「ーバ」を条件接続用法から分離させているものの、文の機能については深く論じていない。

本研究が集めた日本人会話データを観察すると、確かに「ータラ」「ーバ」が文末に用いられる文は、文末詞的な用法を持っていると言えるかもしれない。しかし、その用法が談話においてどのような機能を持ちうるか、中島(1997)のように単に「勧告」の場合にのみ使われるのかは疑われる。

ベイズ高野・新里(2001)は、条件の接続助詞から談話・対人機能の助詞へ

と変化するという文法化の観点から、「ータラ」の機能を考察している。文末の「ータラ」を完全に条件用法から分離させ、談話・対人機能を持つ終助詞として捉えた上で、その談話機能を提案、仮説、願望・後悔、提題という五つに分けている。バイズ高野・新里（2001）は語用論的観点から対人機能を考察する以上、話し手と聞き手の対人関係や発話状況などによって分析をさらに掘り下げるべきであるが、そのことに関する記述は見当たらない。

本稿は、バイズ高野・新里（2001）に基づき、談話の文末における「ータラ」「ーバ」文を省略文ではなく、一つの完全文として判断する。そして、「ータラ」「ーバ」は話し手が相手に自分の意図を伝達するための終助詞的な用法を持つとみなす。

3. 調査概要

3. 1 データ収集

各テレビ放送局で放送された連続ドラマとアニメ、映画などを録画し、文字化を行った。スクリプトから文末形式として現れた「ータラ」「ーバ」に関するデータを採集した。

本調査では、発話者の年齢や性差、また発話場面が「職場」か「家庭」かなどをも十分配慮した上で、作品を選んだ。その他に、先行研究で扱われている用例と筆者が日常生活の会話から収集した用例も含めた。「ータラ」の用例と「ーバ」の用例数は表1のとおりである。

表1 「ータラ」「ーバ」用例の出典及び用例数

	作 品	ータラ	ーバ
連続 ドラマ	今週妻が浮気します』（全10話） 『眠れる森』（全12話） 『ライフ』（全11話） 『地獄の沙汰もヨメ次第』（全10話） 『肩越しの恋人』（全9話） 『女帝』（全10話） 『スシ王子』（全8話） 『渡る世間は鬼ばかり』（第33～35話）	24例	42例
テレビ アニメ	『サザエさん』（作品No.5888, 5889） 『まるこ』（第614、615話） 『ナナ』（全37話）	5例	9例

映 画	『愛の流刑地』 『となり町戦争』 『DEATH NOTE』	3 例	2 例
その他		9 例	7 例
計		41例	60例

3. 2 調査の対象

今回の調査では、発話行為や対人関係の分析枠組みから終助詞的な用法「ータラ」「ーバ」の談話機能を考察するため、話し手と聞き手両方が必ず存在することを前提とした。そして、聞き手に対する話し手の発話に含まれる「ータラ」「ーバ」で、文末のイントネーションの上昇や下降を伴うものを対象とした。次のような2種類がある。

①文末イントネーションの上昇の場合：

(3)もうさあ、付き合うのをやめ**たら↑**
『ライフ』

(4)だったら、萌ちゃんとのケンカも**やめれば↑**

②文末イントネーションの下降の場合：

(5)ちょっと**静かにしたら↓**
『地獄の沙汰もヨメ次第』

(6)素直に**喜べば↓**

しかし、独り言や「～てもらう／～いただく」「～てくれる」などのような授受補助動詞の後ろにくる例、「～でよかったら／～でよければ」のような慣用的表現、「なきゃ」などのような「ーバ」の縮約形に当たるものは、今回の調査で対象外とした。

4. 本稿で扱う発話行為と対人関係

4. 1 発話行為について

Austin (1962) ³やSearle (1969) ⁴、山梨 (1986) ⁵を参照して、発話行為の定義の再整理を試みた。「ータラ」「ーバ」が使われている発話行為を「命令」「勧め」「提案」「許可与え」に分け、これらの発話行為の成立に不可欠となる語用

論的な条件を話し手側（以下、H）の条件と聞き手側（以下、K）の条件、実現される事態側（以下、G）の条件、話し手と聞き手の対人関係に分け、下記の表2のように分類した。

表2 発話行為の成立の語用論的条件

	Hの条件	Kの条件	Gの条件	HとKの対人関係
命令	KにGの実現を訴え、働きかける。KがGを実現すると信じている。	Hの要求に沿ってGを実現する能力があり、Gの実現が義務付けられている。	Kによる未来の行為であるが、実現される可能性が高い。	Hは命令できる権威を持つ立場、状況にある。Kに行為を要求する仕方が強制的である。
勧め	Kに関する十分な情報や根拠に基づき、Kに自分の判断や考えを働きかける。自分の発話が利益になると信じ、Kにも信じさせようと意図を伝える。	Hの発話によりGの実現が自分に利益になると思うが、それを行動に移すかは不確定である。	Kによる未来の行為であり、実現される可能性は低い。	HはKよりも社会的地位が上であるか、知的に勝っている場合に行われるため、対人関係に配慮する必要がある。Hの好意を伴い、感謝の対象となる。HがKに対する要求が丁寧である。
提案	Kに関する情報が十分ではなくても自己判断や考えをKに伝え、信じさせようとする。	Hの発話が自分にプラスになるかどうか判断しにくいいため、行動に移す可能性が低い。	Kによる未来の行為。Gの内容が「議論」下にあるため、HとKの検討が必要。	Hの好意が必ず伴うとは言えない。聞き手に好意を持って行う場合もあれば、好意を持たずにも行為は行う場合もある。
許可与え	HはKの行動を規制する権限を持ち、また「許可与え」表現の主体者である。	Gを実現させるために、Hに訴え、働きかける。Gを実現することにより利益を得る。	Kによる未来の行為	①HはKによるGの実現に決定的な力を持っている。 ②Gの実現がKに利益をもたらすため、KはHとの関係を配慮する必要がある。

筆者による主観的判断を避けるために、今回の調査で日本人母語話者5人に発話場面を判断してもらった。

4. 2 対人関係について

土居（1971）⁶や中山（1989）⁷、三宅（1994a, 1994b）⁸を参照して、対人関係を「ウチ」「ソト」「敵対関係を持つソト」「ヨソ」という4つのカテゴリーに区分した。

ウチとは「家」「学校」「職場」などの日常生活において話し手と親密な関係

を持ち、話し手の対人関係の配慮が少ないまたは話し手自身が甘えることができる関係である。ウチを「家族」と「家族外」に分け、「家族」の人を自分の親や兄弟、あるいは夫婦関係にある家族の構成員とし、「家族外」の人を、学校または職場などにおける親友関係にある人、あるいは恋人関係にある人とする。話し手は「家族」に対しては甘え的な態度を取ることができるが、「家族外」に対しては甘え的な態度が低くなる。

ソトは家族外の「親戚」「近隣」「学校」「職場」において、話し手と何らかの関わりを持つ、上下関係や親疎による言語行動に話し手が格別に配慮する必要があり、親しくない関係を指す。例えば、学校の先生、先輩、同級生の場合であり、職場の上司、先輩、同僚は一般に**ソトの人**である。また、話し手と何らかの関連を持つ人の中には、立場上明らかに話し手と敵対関係を持ち、話し手の利益に損害をもたらす人もある。このような人は**敵対関係を持つソト**とする。敵対関係を持つソトの人に対しては、話し手は対人関係の配慮がソトの人より小さい。

ヨソは日常生活で自分に声を掛けてきた通行人、電車等で会話を交わした人、自分にサービスを提供する販売員等のように、何らかのきっかけで話し手と関係を持ちえて会話を交わすが、その場限りで関係が終わる。ヨソの人に対しては話し手の対人配慮が小さい。

ウチ、ソト、敵対関係を持つソト、ヨソを図1のように対人関係の配慮が小さい領域と大きい領域に分けた。図では、円の中心部が「自分」、「自分」の周りがウチ、ウチの周りがソト、ソトの周りが敵対関係のもつソト、円の一番外側がヨソになっている。そして、陰影のある部分が対人関係の配慮が大きい領域、陰影のない部分が対人関係の配慮が小さい領域である。つまり、ソト関係は対人関係の配慮が大きい、ウチ・敵対関係を持つソト、ヨソ関係はソトより対人関係の配慮が小さい。

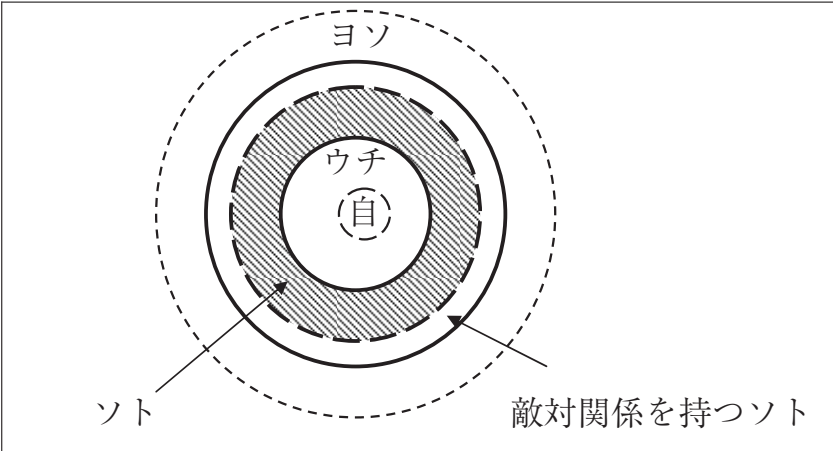


図1 ウチ、ソト、敵対関係を持つソト、ヨソの対人配慮のモデル

テレビドラマやアニメ、映画から採集したデータにおいては登場人物間の関係が物語の展開によって変化するため、筆者は会話が行われる場を一つの単位として見なし、そのときの登場人物の関係を判断した。

その結果、終助詞的用法「ーたら」「ーバ」は「命令」、「助言」、「許可」などの発話場面に用いられ、それぞれの談話機能を持ちうることがわかった。「ーたら」「ーバ」の談話機能を次の表3のようにまとめる。

表3 終助詞的用法「ーたら」「ーバ」が持つ談話機能

	発話場面	談話機能	ウチ	ソト	敵対関係を持つソト	ヨソ
ーたら	命令	ある行為を命令する	○	×	○	×
ーバ				○		
ーたら	助言	ある行為を勧める	○	○	×	○
ーバ						×
ーたら		ある行為を提案する	対人関係の影響を受けない			×
ーバ						
ーバ	許可	ある行為を許可する	○	○	○	×
		ある行為を放任する		×	×	

(注：○は当てはまった用例があるものとし、×は当てはまる用例がないものとする。)

5. 考察

5. 1 「ある行為を命令する」機能

5. 1. 1 「一タラ」の用例

「一タラ」が「命令」の発話場面に用いられる場合は、対人関係の配慮が小さいウチの人や、敵対関係を持つ人に対して「ある行為を命令する」機能を持つ。次の(7)は「家族同士」のようなウチの人に対する発話であり、(8)は「いじめをする側」と「いじめに反対する側」の戦いのような敵対関係を持つソトの人に対する発話である。

- (7) (自分の息子をやっと寝かした娘のあかりは、居間でまた口げんかを始めた親に話しかける)

あかり：ちょっと**静かにしたら** ↓ 祐助（自分の子供）が眠ったばかりなんだから。

親：…

『渡る世間は鬼ばかり』

- (8) (歩、みどり、羽鳥、倫子は同じクラス的女子高校生である。歩はみどり、倫子たちにいじめを受けているが、羽鳥とは親しい仲間である。歩は合宿の洗い場でみどりたちから全クラスの茶碗を全部任される。そこへ、羽鳥が歩のことをかわいそうと思い、花火で楽しんでいるみどりたちに水をかける。)

みどり：何すんだよ！

羽鳥：お皿、洗わせてんでしょ！歩に。

倫子：歩が自分一人で全部洗うって言ってんだよ！

羽鳥：やること、**やって遊んだら** ↓

『ライフ』

(7)の「一タラ」は、自分の「親」に「静かにする」ことを命令的な口調で発した「娘」の発話に対し、聞き手の「親」は「娘」の命令を受け入れたように沈黙の状態を持続している。(8)では、話し手の「羽鳥」は、自分と敵対関係を持つ人である聞き手の「みどり」「倫子」に「歩のことをいじめずに自分でやることはやってから遊ぶ」という自分の望みを強制的に相手に要求し、命令的な口調でタラ文を発している。ここでの「一タラ」は下降調の文末イントネーショ

ンを伴い、「ある行為を命令する」機能を果たしていると考えられる。

5. 1. 2 「一バ」の用例

「一バ」が「命令」の発話場面に用いられる場合は、「一タラ」と同じく、対人関係の配慮が小さいウチの人や、敵対関係を持つソトの人に対してはある行為を命令する働きがある。(9)は「親友同士」の発話であり、(10)は「敵対関係を持つ同級生同士」の会話である。

- (9) (るり子は萌と親友でもあり、よくけんかする仲間でもある。るり子は柿崎と萌を仲直りさせるために、柿崎を誘う。)

るり子：(略) せっかく柿崎さんが来てくれてんのにさ、どうしてあんなことしか言えないわけ？

萌：悪かったわね、愛想のない女で。

るり子：離婚するって言ってんのよ。素直に**喜べば**↓。

萌：嬉しくないし。

『肩ごしの恋人』

- (10) (登場人物は同じクラスの高校生であるが、愛海、倫子たちは歩をいじめている者でもある。愛海らが歩をトイレに連れ込んでいじめようとするが、園田に止められる)

園田：いい加減にしろよ！

倫子：はあ？うちらトイレに行くだけなんですけど、

愛海：なにか勘違いしてない？園田君！

園田：だれも止めないからって、調子にのるなよ！

石井：っていうかさ、安西（愛海）たちもやりすぎんじゃないの？

遠藤：お前たちだけで行けばいいし。

園田：早く**いけば**↓

『ライフ』

(9)は話し手の「るり子」が、自分がせっかく用意した機会を「萌」によって逃してしまったことに不満を抱き、「柿崎のことを素直に喜んで受け入れる」行動を取るように、聞き手の「萌」に訴え、働きかけている場面である。そして、(10)は話し手の「園田」が、「愛海」たちの行動を止めさせようとして「トイレは愛海たちだけで行く」ことを聞き手の「愛海たち」に強く働きかけている場面であることが分かる。対人関係について言うと(9)(10)とも、話し手の発話は対人

関係を配慮せず、話し手がある行為を強制的に要求する発話行為であることが考えられる。

「命令」の発話場面は、ソトの人に対して「一バ」は用いることができるが、「一タラ」は用いることができない。例えば、(11)のような発話である。

- (11) (会社で主任を担当している萌は、何度もミスを繰り返す部下の松下さんに話す)

萌：松下さん、あんまり同じミス、繰り返さないでくれないかな？謝ることこの身にもなってもらいたいんだけど。

松下：でも…

萌：何？

松下：いいえ。

萌：いいわよ！言いたいことあるんだったら、**言えば**↑

松下：だって主任はクレーム処理するのが担当じゃないですか？その分余計にもらっているんだし。

『肩ごしの恋人』

(11)は、会社の主任である話し手の「萌」が自分の部下に対し、「意見があれば言う」ように聞き手の行動を促している場面である。ここでの「一バ」は上昇調の文末イントネーションを伴い、自分の部下に対する表現をストレートにしないためであると判断できる。したがって、「ある行為を命令する」機能を持つと言える。ここに「言ったら？」を入れ替えると、話し手が聞き手に、話し手自身に向けてのある行動を強制的に要求する「命令」の行為よりも、話し手が聞き手の利益のために、第3者に向けての行動を取るように促す「勧め」の行為に近いと考えられる。

5. 2 「ある行為を勧める」機能

「助言」場面に用いられる終助詞的用法「一タラ」「一バ」は対人関係の配慮と関わらず、ウチの人やソトの人に対して「ある行為を勧める」機能を持つ。しかし、「勧め」の行為は話し手の好意が伴っているため、敵対関係を持つソトの人に対しては行為自体が起こらないと推測される。

5. 2. 1 「一タラ」の用例

(12)(13)は、話し手が「自分の母」、「同僚」に対して発した「一タラ」文である。

- (12) (みちるは、離婚したままで再婚がうまく進まない母に、話す)

みちる：真琴さんの友達にはきっとセレブがいっぱいいるよね、あ、仲良
くなくて再婚の相手でも紹介してもらったら↑。

母：何、言ってんのよ。

『地獄の沙汰もヨメ次第』

- (13) (同僚である男女が話している。女は仕事に落ち着かない男の様子を見て、その理由を尋ねる)

女性：今日、どうしたの？

男性：俺今日で8年目の結婚記念日なんだ。

女性：えっ、そう？じゃ、今日は早目に上がったら↓。残った仕事は、一
人でやるから。

男性：じゃ、頼むね！

『今週妻が浮気します』

(12)の「一タラ」は、話し手の「みちる」が聞き手の「母」に「再婚」という行動を働きかけている。この働きかけは、聞き手への話し手の好意が伴われたため、話し手が聞き手に対して「ある行為を命令する」機能とは異なり、「ある行為を勧める」機能を果たしている。(13)では、話し手の「女性」は聞き手が今日結婚記念日であることを知り、聞き手に「早く帰宅する」ように勧めている。下降調のイントネーションとともに「一タラ」が用いられているのは、話し手が「さっそく帰宅してほしい」という自分の気持ちを表出するためである。したがって、(13)の「一タラ」は、話し手が聞き手に「帰宅する」行為を勧める機能を持つと思われる。

その他に、「一タラ」はヨソの人に対して何かを軽く勧める時にも用いられる。例えば、次の(14)のような発話である。

- (14) (道に迷った留学生Aが、初対面のBに道を聞く)

A：あのう、すみません、道尋ねたいんですけど、〇〇にはどうやって行
けばいいですか？

B：この道を真っすぐ行けば、角のところに交番があるので、聞いてみ
タ
ラ↑

A：どうもありがとうございました。

(生テープ)

5. 2. 2 「一バ」の用例

「一バ」文も「一タラ」文と同じく「ある行為を勧める」機能を持つ。(15)(16)は話し手が「親友」や「知り合い」に対して発した「一バ」文である。

(15) (文ちゃんが失恋したばかりの親友を慰めようと店にやってくる)

文ちゃん：いいの、いいの。ほら、そろそろ閉店でしょ？ウチ(自分の店)、
来てなんか飲め**ば**↓

リョウ：無理。(文ちゃんの真似をする) 俺、出入り禁止だから。

『肩ごしの恋人』

(16) (柿崎は萌を慕う。二人は夕食を一緒に取った後、タクシーを待っている。)

柿崎：だから、楽なんだろうな、君とだったら、相手の顔色をうかがうことも、こっちの顔色うかがわれる心配しなくてもいい。日曜日の買い物も君とだったら、退屈しないかもな…

萌：ふふ、ねえ、酔ってるの？

柿崎：(笑いながら) かなり。

萌：だったら、水でも飲め**ば**↑

(柿崎と萌、笑う)

『肩ごしの恋人』

(15)は「文ちゃん」が親友の「リョウ」を自分の酒屋に誘う場面である。話し手は聞き手に不愉快なことを忘れさせることを意図して、「自分の店に来てお酒を飲む」ことを勧めている。ここの「一バ」も話し手の好意が伴われ、「お酒を飲む」行為を勧める機能を担っている。(16)では、真面目な話をしている「柿崎」に、「萌」が冗談のように「酔ってるの？」と尋ね、「柿崎」が「かなり酔ってる」と答えつつ「萌」の冗談を受け入れる。そして、話し手の「萌」が「水でも飲む」ことを勧め、会話が進んでいく。

5. 3 「ある行為を提案する」機能

話し手が相手に何かを提案する際には、その行為自体は対人関係の影響を受けないと考えられる。そのため、「一タラ」「一バ」も対人関係の影響を受けずに気軽に何かを提案する時に用いられる。

5. 3. 1 「一タラ」の用例

「一タラ」が「ある行為を提案する」機能を持つ場合の例(17)と(18)を観察することにする。

(17) (いつも同じ歌ばかり歌っている父にまるこが、話す)

まるこ：「ハア、お父さんはそればかりだね。たまにはほかのもの **歌ってみたら ↑**」

父さん：「うん？」

まるこ：「例えばさあ、… (略)」

『ちびまるこ』

(18) (萌は自分の会社でバイトをする高校生の崇と知り合う。萌は、崇と自分の母とのトラブルを聞かされる。)

萌：(略) さあ、お父さんに相談してみるとか、して **みたら ↑**

崇：相談するも何も、父はほとんど家にいない！一緒に飯食ったなんて一歳頃の誕生日以来。

『肩ごしの恋人』

(17)では、話し手の「まるこ」が「父」に「ほかの曲を歌う」ことを提案している場面で「一タラ」が用いられている。聞き手の利益と関係なく、話し手が気軽に自分の考えを聞き手に伝える行為は「提案」であると考えられる。(18)の「一タラ」は、初対面同士の会話で「崇」から悩みを聞かされた「萌」は「お父さんに相談したほうがいい」と提案するが、「崇」に拒絶されてしまう。話し手は、自分の考えや意見が相手に負担をかけないように、聞き手に軽く何かを提案する機能を持つと思われる。

5. 3. 2 「一バ」の用例

「一バ」が「ある行為を提案する」機能を持ちうる場合は、次の(19)(20)のときである。

(19) (もうじき、披露宴が始まろうとするが、るり子がいきなり結婚をやめたいと言い出す。そこで、新郎の代わりに萌が必死で説得するが、結局失敗してしまう。次は説得に疲れた萌とるり子の会話である。)

るり子：やっぱり怒ってるってこと？

萌：は一、しつこい。

るり子：やめる、結婚なんてやめる。

萌：あ、そう？じゃ、**やめれば↑** ご祝儀も返してもらえるし、そっちが嬉しいかも。

(しかし、披露宴は順調に進んでいた)

『肩ごしの恋人』

⑳ (高田は警察にキラーだと疑われるようになる。その後、警察から取り調べを受ける。)

警察：名前を書いてどうするんだ？

高田：書だけよ。

警察：だから、書いた後どうするんだ？

高田：(自分の話を信じてくれない警察に) ふーん、**試してみれば↑**

(高田、気が狂って笑いながら死んでいく)

『DEATH NOTE』

⑲は話し手の「萌」が親友の「るり子」を説得することを諦め、聞き手の「るり子」の意志に従い、「結婚をやめる」ように提案するが、聞き手に否定されてしまう場面である。㉑は⑲と違って、犯人の「高田」が「警察」の取り調べに反感を持ち、挑発的な提案をする場面である。このように、話し手と聞き手が何かを議論している場合には、「勧め」というよりも「提案」の行為であると言える。したがって、「一バ」は「ある行為を提案する」機能を担っている。

5. 4 「ある行為を許可する」機能

「許可する」場面に用いられた用例は「一バ」のみであり、「一タラ」の用例は今回の考察では見当たらなかった。では、「一バ」は、発話の中でどのような役割で働くのかを、下の㉑㉒の例に即して観察する。

㉑ (信之が家出をした自分の妻を捜しに、萌の部屋にやってくる)

信之：(ドアを叩く) るりちゃん、るりちゃん、

萌：近所迷惑でしょ？やめなさいよ！

信之：るりちゃん、中にいるんだろう？隠しても俺には分かるんだぞ。

萌：いるよ、**入れば↑**

信之：いいの？

(萌、ドアを開ける。)

『肩ごしの恋人』

② (トイレで皆に暴行される愛海を見た歩、驚く)

みどり：(歩に) お前もやれよ、今まで愛海にひどいことされただろ？

(歩、みどりから雑巾を持たされ、愛海を見つめる)

愛海：(歩に) やるなら、**やれば↑** 言っとくけど、あなたに謝るつもりはないから。

歩：いまさら、謝られても許すつもりはない。あんたって本当に最低だね。

『ライフ』

①には「許可」を求める聞き手の発話はないが、入りたいという願望は強く表出されている。話し手の「入れば」は「入ってもいい」の表現と同じく、許可を与える発話であると思われる。「一バ」は話し手が聞き手にある行為を許可する機能を有する。②は敵対関係を持つソトの人同士の会話であり、「一バ」は話し手の聞き手に対する挑発的な発話に用いられている。ここでの「一バ」も何かを許可する働きを果たしている。①におけるように話し手がソト関係の相手に「何かを許可する」場面では対人関係に配慮する必要があるが、②におけるように敵対関係を持つソト関係においては対人関係に配慮する必要性が少なくなる。しかし②の場合では、話し手の「やられてもいい」という態度が明らかである。したがって、「一バ」の談話機能は①では「ある行為を許可する」ことであり、②では挑発的な口調で「ある行為を許可する」ことである。

5. 5 「ある行為を放任する」

上記の例①②におけるものとは違って、聞き手の無理な要求に対して話し手が放任的な態度を取る場合にも「一バ」が用いられる。次の③④のような発話である。

③ (仲間の淳子から東京の大学を受験する決心を聞かされたナナは、何も考えずついていくと話す。淳子がナナに慎重に考えることを何回も勧めるが、ナナは聞かない。)

ナナ：私も東京に行きたい！

淳子：好きに**すれば↓** あなたの人生がどうなろうと知ったこっちゃないよ！

『ナナ』

④ (ケンカしたばかりの夫婦の会話)

夫：これからどうする？

妻：勝手にすれば ↓

(生テープ)

②3は、聞き手が「私も東京についていく」ことへの許可を求めている発話に対し、話し手は聞き手への勧告を諦め、「好きにしてもいい」と聞き手の行為を放任してしまう。②4は、夫婦ゲンカをした後の会話において、夫の「どうする」の質問に、妻が「勝手にしていい」と聞き手の行動に関与する意思がない態度を表明している。②3②4の「ーバ」は許可を求める聞き手に対して話し手を取りうる一つの態度の表現であり、そこには話し手から聞き手への働きかけはない。したがって、「ーバ」は話し手の聞き手に対する「ある行為を放任する」表現であると言える。

6. まとめと今後の課題

今回の調査でテレビドラマや映画の言葉をデータとしたところ、「ータラ」には「命令」「助言」の発話場面に使われ、話し手が相手に対して「ある行為を命令する」機能や「ある行為を勧める」機能、「ある行為を提案する」機能があり、「ーバ」には「命令」「助言」「許可与え」の発話場面に用いられ、「ある行為を命令する」機能や「ある行為を勧める」機能、「ある行為を提案する」機能、「ある行為を許可する」機能、「ある行為を放任する」機能があることが分かった。そして、ウチ、ソト、敵対関係を持つソト、ヨソの違いに応じて談話機能が異なることも示唆された。

しかし、今回の調査では、見当たらなかった種類の用例があったが、日常生活の会話で絶対に使われないとは断定できない。したがって、今後は自然な談話からより数多くの用例を見つけだし、「ータラ」「ーバ」の使い分けに関して更に詳細な分析を行っていきたいと思う。

注

- 1 ここに取り上げている研究のほかに、白川（1995）、齊（1998）、許（2000）などがある。
- 2 「職場における女性の話しことば」は1994年、現代日本語研究会が財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書として作成されている資料を編纂し

たものである。

- 3 Austinは発話行為 (Speech Act Theory) の定義を i. 発語行為 (locutionary act)、ii. 発語内行為 (illocutionary act) iii. 発語媒介行為 (perlocutionary act) に分類し説明している。
- 4 Searleは、発話行為を 発語行為 (utterance act)、 命題行為 (propositional act) a言及行為 (act of referring) b叙述行為 (act of predicating)、iii 発語内行為 (illocutionary act) と下位区分している。
- 5 山梨はAustin (1962) とほぼ一致している。
- 6 土居は、日本人がウチとソトという言葉で人間関係の種類を区別する場合の目安として遠慮の有無を挙げている。
- 7 日本人の対人関係をウチ・ソト・ヨソに分けている。そして、「過剰配慮」がソトの人に対しては最大になり、ウチやヨソに対しては弱まり、時には全く消失すると説明している。
- 8 三宅は、土居 (1971) のウチ・ソトの枠組みにヨソを加えている。「ウチの人間は自己のまわりの家族やごく親しい人々、ソトの人間はごく親しくないが自己やウチと関連のある人々、ヨソの人間は自己やウチとは関係がないが、なにかのきっかけで関係を持ちえる人々 (例：通行人、電車等で知り合った人、サービス業の人など)」と述べ、日本人の「丁寧さ」はソト層の人間をウチ層の人間と区別する待遇や言語表現をすることで実現されると説明している。

参考文献

- 小野米一・バル维 (1983) 「条件表現『と』『ば』『たら』『なら』の異同について—中国人学習者のために—」『北海道教育大学紀要』第一部人文科学編 (34)、北海道教育大学、pp. 13-24
- J. R. サール著、坂本百大・土屋俊訳 (1986) 『言語行為—言語哲学への試論』勁草書房
- 元春英 (2008) 「日本語の話し言葉における『ータラ』『ーバ』の終助詞的な用法—対人関係と発話行為の観点から」平成19年度名古屋大学大学院国際言語文化研究科修士論文
- 島弘子 (1991) 「文末の省略とボライトネス」平成2年度名古屋大学大学院文学研究科修士論文
- 中島悦子 (1995) 「女性のことばと文末の言語形式」『ことば』15、現代日本語

- 研究会、pp. 36-52
- _____ (1997)「自然談話に現れる『と』『ば』『たら』『なら』－非条件接続用法を中心に－」『ことば』18号、現代日本語研究会、pp. 108-124
- _____ (1998)「自然談話に現れる『と』『ば』『たら』『なら』－条件接続用法を中心に」『ことば』19号、現代日本語研究会、pp. 106-130
- ベイズ高野園・新里瑠美子 (2001)「条件の接続助詞から談話・対人機能の助詞ヘータラ、ツタラの文文化－」『言語学と日本語教育Ⅲ』くろしお出版、pp. 127-142
- 三宅和子 (1994 a)「日本人の言語行動パターン－ウチ・ソト・ヨソ意識」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』筑波大学留学生センター、pp. 29-39
- 三宅和子 (1994 b)「詫び」以外で使われる詫び表現－その多様化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係－『日本語教育』82号、日本語教育学会、pp. 134-146
- 山梨正明 (1986)『発話行為』大修館書店

用例出典一覧

- シナリオ『愛の流刑地』（鶴橋康夫，2007年3月）
- シナリオ『となり町戦争』（菊崎隆志／渡辺謙作，2007年3月）
- 集英社『DEATH NOTE』（大石哲也，2006）
- TBSテレビ放送局『肩ごしの恋人』（後藤法子，2007年）
- TBSテレビ放送局『地獄の沙汰もヨメ次第』（西荻弓絵，2007年）
- TBSテレビ放送局『渡る世間は鬼ばかり』（橋田壽賀子，2006）
- テレビ朝日放送局『女帝』（旺季志ずか／高山直也／吉田玲子，2007）
- テレビ朝日放送局『スシ王子』（佃典彦，2007年）
- 日本テレビ放送局『ナナ』（矢沢あい，2006-2007）
- フジテレビ放送局『今週妻が浮気します』（吉田智子，2006）
- フジテレビ放送局『サザエさん』（雪室俊一／城山昇，2007）
- フジテレビ放送局『ちびまるこ』（杉森美也子／西沢七瀬，2007）
- フジテレビ放送局『眠れる森』（野沢尚，1998年）
- フジテレビ放送局『ライフ』（根津理香，2007）